

こちら特報部

# 加熱式たばこ、有害物質減?

2014年の発売以来、着々と普及している加熱式たばこ。その健康影響について日米の保健衛生当局が、いずれも「従来の紙巻きたばこよりも有害物質の含有量

が少ない」と報告したことに対し、禁煙を推進する団体などが反発を強めている。煙の出ないたばこをめぐる、煙が出そうな熱い論争の行方は一。(大村歩)

## 日米当局が報告

# 禁煙派 くすぶる困惑

「従来の紙巻きたばこよりも、人体に有害もしくは有害の恐れのある物質の含有量が少ない」。世界最大のたばこ企業「フィリップ・モリス・インターナショナル(PMI)」が日本などで販売している加熱式たばこ「IQOS(アイコス)」について、米食品医薬品局(FDA)は先月二十一日、暫定的な臨床試験報告書を公表した。

PMIは一昨年と昨年、FDAに対して、米国内でまだ販売が認められていないアイコスを、健康被害の少ないたばことして販売するための申請を行っており、この報告書はFDAの審査に向けて作成された。報告書をもとに議論された先月のFDA科学諮問委員会は、「アイコスに完全に切り替えた場合、疾病リスクが減らせる」というPMIの主張は退ける一方、「身体が有害化学物質にさらされる機会が大幅に低減する」ことは委員の大多数が認めた。PMIの日本子会社広報担当の藤原綾子氏

## 「厚労省は業界に弱腰」

原則禁煙だが、加熱式たばこなら吸える飲食店



「アイコスのリスク低減の可能性を認めてもらったと理解している」と話す。ウォールストリート・ジャーナル(電子版)は「証券会社のアナリストはこの結果から、FDAがアイコスをたばこに比べて安全な製品として販売することを承認する『可能性はある』

との見方を示した」と報じた。一方の日本。厚生労働省は先月三十日、受動喫煙対策の強化を柱とした健康増進法改正案を公表した。中でも特に注目を集めたのは、やはり加熱式たばこに関する報告だ。それによれば、加熱式たばこの主流煙にも複数の発がん性物質が含まれているが、最大でも紙巻きたばこの四分の一で、喫煙時の室内におけるニコチン濃度も大幅に低減されることが判明したという。これを受け、厚労省は、加熱式も規制対象にするものの、飲食店で、加熱式用の喫煙室を設けた場合にはその中なら飲食しながら喫煙することを認め、紙巻きより緩やかな規制とした。

要するに、日米の当局とも、紙巻きよりは加熱式の方がましだという見解を示したともとれるわけだが、「加熱式ならまだましという立場の人と、加熱式も紙巻きと同じでやはりダメだという立場の人が分断されてしまった。禁煙の流れが弱体化してしまう」と眉をひそめる。一方、日本禁煙学会の宮崎恭一総務委員長は「加熱式だろうがなんだろうが、たばこはたばこ。きちんと規制するべきなのに、厚労省はたばこ業界に対して弱腰になっている」と語気を強める。「加熱式は紙巻きより高濃度にニコチンが吸収されるという研究報告もあり、健康影響の評価はこれからだ。たばこ業界は非難される有害物質を減らしたということばかりアピールするが、有害物質ゼロではない。十階から飛び降りると二階から飛び降りるのとどちらが死亡する危険が低いのかという議論と似ている、ナンセンスだ」

「エース」の追跡